

地域に根差す、足利赤十字病院の広報誌

風流鱗

—かぜながすくじら—

ご自由に
お持ち下さい
Take Free

2022.1 Vol.36



- 新年のご挨拶(室久俊光 院長)
- 診療科紹介〈脳神経内科〉
- 放射線治療科 サイバーナイフ装置導入
- 泌尿器科 ロボット支援腎切除術開始



TOPICS

- 山崎雄友研修医 第60回栃木県総合医学会 最優秀賞受賞
- 三井茜看護師 日本腹膜透析医学会 コメディカル賞受賞
- 栄養課の窓
- 薬剤部の豆知識
- 活動報告&お知らせ

新年のご挨拶

2022年 新年明けましておめでとうございます。

振り返りますと昨年も2020年から続く新型コロナウイルス感染症に翻弄された年であったと思います。当院では新型コロナ感染患者の入院加療、発熱外来の設置、行政依頼核酸検査の実施、足利市集団予防接種への協力、そして抗体カクテル療法の導入など新型コロナ感染に対して対策、対応をして参りました。その間入院患者さまへの面会制限など患者さまそしてそのご家族に大変なご不便、ご心配をおかけしました。またマスク着用や手指消毒、そして体温測定など感染対策にご協力をお願いしました。この場をお借りしてご協力に感謝申し上げます。現在は新型コロナ感染第6波のまっただ中になります。状況に応じて今後も必要な対応を取ってまいりますので引き続きご協力をお願い致します。

そのようなコロナ禍の中、昨年当院は国際的病院機能評価認証であるJCI(Joint Commission International)、検査室の質の国際評価であるISO15189、そして外国人患者受け入れ医療機関認定制度(JMIP)の更新審査を受審しました。いずれも審査員が来院し実地で評価を行う厳しい審査でありましたが高い評価を頂くことができました。コロナ診療のみならず通常の診療においても揺るぎない体制を維持していることを内外に示せたのではないかと誇りに思っております。今年もコロナ診療と救急を含む一般診療の両立に全力で臨みたいと思います。

末筆ではございますが一刻も早く新型コロナが収束し令和4年が皆さまにとって良い年となる事を心からお祈り申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願い致します。



院長 室久 俊光

今年は新規事業として放射線治療機器であるサイバーナイフを導入します。サイバーナイフは多方向から放射線を照射する事により治療効果の向上と副作用の軽減を実現した最新鋭の装置であり栃木県では2台目の設置となります。この機器の導入により癌診療連携拠点病院である当院の放射線治療の幅と質が飛躍的に広がります。本年11月頃の稼働を予定しておりますのでご期待下さい。その他来年に予定している病院機能評価認定更新の準備を開始しさらなる診療の質と医療安全の向上に取り組みます。

当院は今年も両毛地域の急性期を担う基幹病院としてさらに頑張って参りますのでご支援を頂ければ幸いです。

末筆ではございますが一刻も早く新型コロナが収束し令和4年が皆さまにとって良い年となる事を心からお祈り申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願い致します。

寅

診療科紹介

脳神経内科

Neurology

様々な神経疾患に対し
高度な専門性のある医療を提供します

■ 脳神経内科とは

脳神経内科は、脳や脊髄、神経、筋肉に病気があり、心身に支障をきたす病気を扱う診療科です。従来、神経内科と呼称していましたが、神経科、精神科、心療内科などと名称として紛らわしいことがあり、標榜診療科名をより具体的でわかりやすいものとするべく、日本神経学会により呼称が改められました。



第二脳神経内科部長
永島 隆秀

■ 足利赤十字病院における脳神経内科

当院の脳神経内科は昭和49年に開設したのち、両毛圏の基幹病院たるべく、神経救急から慢性疾患まで、幅広い診療を行ってまいりました。現在も、脳神経内科の医師が、各々の専門分野の知識を生かした診療を行っています。

■ 地域診療における脳神経内科

人口の高齢化に伴い、健康寿命期間の維持はますます重要性を増しています。2019年の国民生活基礎調査では、要介護の原因として認知症(17.6%)が、脳卒中(16.1%)を抜いてついに一位となりました。認知症の早期発見と治療、リスクとなる生活習慣病や身体疾患の管理は地域診療として喫緊の課題です。また、介護に影響の大きな精神症状に関しては、精神科とも密に連携をとっていただいており、全人的な診療体制の構築に努めています。その他、日進月歩である神経筋領域において、最先端の標準的診療を地域に届けられますよう日々研鑽を心がけています。

より健康なる地域社会を目指して努めて参る所存ですので、今後ともご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

放射線治療科
最先端
放射線
治療器

サイバーナイフ装置 導入のお知らせ



▲導入するサイバーナイフ装置



▲サイバーナイフを使用した肺癌治療の様子

放 射線治療科の川口修と申します。主にがんの患者様を中心に放射線治療の面で診療に携わっております。足利赤十字病院では令和4年秋の稼働を目指してサイバーナイフというピンポイント照射の専用装置の導入が決定したのでお知らせいたします。

サイバーナイフは高エネルギーのX線を細いビームにしてロボットアームの先端から患部に向けて様々な方向から自在に狙い撃つことができる装置です。肺癌・肝癌・脾癌・前立腺癌・腎癌・脳腫瘍・脊椎転移などの様々な疾患で病変があまり大きくなく、限られた範囲に限局している場合に大きな効果を発揮します。癌の病巣に対して1mm未満の非常に正確な精度で3次元的な様々な方向からビームを集中することができます。そのため周囲の正常臓器を避けながら腫瘍部分に高い線量を照射することができます。肺癌や肝癌など呼吸で動く腫瘍に対してもロボットアームが腫瘍の動きを追跡しながら照射を行うことができるので、周囲の正常組織のダメージを減らしつつ正確に狙うことができます。治療中は特に痛みなどもなく、照射範囲が腫瘍に集中するため副作用が非常に少ないのが大きな特徴です。照射した範囲の癌を9割以上治すことができるとと言われています。従来の放射線治療では多い場合は30回以上毎日少しづつ照射しなければなりませんでしたが、サイバーナイフ治療では1～数回程度で治療でき、多くの場合短期間の外来通院で治療できる点も大きな利点になります。



▲放射線治療棟起工式の様子

泌尿器科
患者さま
の負担を
最小限に

ロボット支援腎部分切除術 を開始しました

(RAPN : Robot-assisted partial nephrectomy)



▲ロボット支援腎部分切除術の様子

2 020年6月より前立腺がんに対して手術支援ロボット(da Vinci)を使用したロボット支援前立腺全摘除術を導入し経験を積んでまいりました。この度2021年10月より、腎臓がんに対するロボット支援腎部分切除術(RAPN)を開始しました。

腎臓がんの手術には腎摘除術(全摘手術)と部分切除術があります。腎部分切除術は、腫瘍とその周辺部分のみを切除し正常な腎組織を温存する方法です。比較的小さな腎臓がんでは標準的な治療法となっています。

これまで、開腹手術または腹腔鏡手術による腎部分切除を行ってまいりました。開腹手術は、広く良好な術野を得やすいため、腫瘍の切除や腎の縫合などの操作は比較的容易ですが、傷が大きい・術後の痛みが大きいことが欠点です。腹腔鏡による腎部分切除術は、開腹手術に比べて傷が小さく、術後の痛みが少ないなど利点も多いのですが、腫瘍の切除や腎の縫合で手技が難しくなることが欠点です。

ロボット支援腎部分切除術(RAPN)は、手術支援ロボットであるダヴィンチ・システムを使用することで、三次元の立体的な画像を見ながら腫瘍と臓器の位置関係を正確にとらえて手術することができます。また、腹腔鏡手術と異なり、人間の手の関節以上に自由度の高いロボット鉗子を用いることで、腹腔内での精密な切開や正確な縫合を素早く行うことが可能です。開腹手術と腹腔鏡手術の利点を合わせ持った手術と言えます。

現在のところは小径腎臓がん(4cm以下)に対し、RAPNを行っておりますが、今後は手術支援ロボットの低侵襲性・確実性・精密性を生かし、4cm以上の腎臓がん対しても積極的に手術療法を検討したいと考えております。地域の皆さんにより良い外科医療を提供できればと考えておりますので、今後ともご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。



第一泌尿器科部長
西井 昌弘



▲泌尿器科ダヴィンチチーム

第60回栃木県総合医学会で 山崎 雄友先生が最優秀賞を受賞しました

11月21日(日)に開催された、「第60回栃木県総合医学会」の一般演題研修医部門において、当院の初期臨床研修医 山崎 雄友先生が最優秀賞を受賞しました。

今回、山崎先生は心臓血管病センター(循環器内科部門)部長 沼澤洋平先生と共に研究活動に取り組み、『大動脈原発粘液腫を経験した一例』と題した演題発表を行いました。

大動脈原発腫瘍は極めて稀な疾患で、1873年に Brodowski.Wが報告して以来、2014年2月までに計165例が報告されています。病理学的な内訳は、未分化腫瘍が65例(39.4%)、血管肉腫が61例(37.0%)、平滑筋肉腫が22例(13.3%)となっています。の中でも未分化腫瘍に分類されている「粘液腫」の報告はわずかに5例しかなく、極めて稀であるのが現状です。

当院心臓血管病センター循環器内科部門は、大動脈内血栓症が疑われていた患者に対して、カテーテルを用いた大動脈生検を行い、「大動脈原発粘液腫」の診断に至った症例を経験しました。当初、大動脈内血栓症として紹介を受けていましたが、造影CT(Computed Tomography)やMRI(Magnetic Resonance Imaging)などの画像検査、臨床経過、そして長期の抗凝固療法への反応が乏しかったことを総合し、大動脈原発腫瘍を念頭に置いた大動脈腫瘍生検に踏み切ることが出来ました。

過去の報告でも、良性の大動脈腫瘍術前に確定診断することは困難とされていますが、本症例の経験を踏まえて、カテーテルを用いた大動脈生検によって早期発見できる可能性が示されました。また、大動脈原発腫瘍または大動脈内血栓症のいずれでも根治的治療は外科的切除が第1選択であり、重篤な多臓器塞栓症を併発する前に精査加療に踏み切ることの重要性を学びました。

同学会の一般演題研修医部門には10名の臨床研修医が応募しており、山崎先生は見事最優秀賞に選出されました。



▲室久俊光院長より
表彰される
山崎雄友先生



◆山崎雄友先生(左)と
沼澤洋平心臓血管病センター
(循環器内科部門)部長(右)

第27回日本腹膜透析医学会で 三井 茜看護師がコメディカル賞を受賞しました

10月30日(土)に開催された第27回日本腹膜透析医学会学術集会・総会において、三井茜看護師が演題発表を行い、コメディカル賞を受賞しました。コメディカル賞とは、様々な職種が連携し、腹膜透析患者さまへの教育活動を行っています。

今回は、この取り組みが高く評価され、400以上ある演題の中から名誉ある賞に選出されました。

今回、三井看護師は、『腹膜透析患者の体重管理に関する教育プログラム』をテーマに当院透析センターでの取組みとその成果について発表を行いました。腹膜透析は、血液透析に比べて通院回数が少なくてすむ治療法である反面、患者さま自身の自己管理が重要になります。中でも、体重のコントロールは、心不全などの合併症のリスクを抑えるうえで特に大切です。



室久俊光院長(左)と
三井茜看護師(右)

活動報告&お知らせ

活動報告 世界保健機関が定めた国際デー 世界糖尿病デーイベントを開催しました

今年度の糖尿病週間(11月8日～11月14日)では「アドボカシー(権利擁護)」をテーマに展示を行いました。コロナ禍での開催でしたが、多くの方々に閲覧していただきました。糖尿病週間のイベントは、11月14日の世界糖尿病デーに合わせて実施しています。世界糖尿病デーは世界に拡がる糖尿病の脅威に対応するために、2006年に国連で公式に認定されており、糖尿病の予防や治療継続の重要性について、皆さんに知っていただく大切な日となっています。



▲糖尿病透析予防チーム



▲糖尿病週間イベントの様子

活動報告 野球部活動報告 MLBドリームカップ全国大会で準優勝を収めました

当院野球部が、11月6日(土)に行われたMLBドリームカップ東日本代表決定戦を突破し、11月27日(土)の全国大会で見事準優勝を収めました。

全国大会準決勝では、延長8回に先攻のカツウラ建機に4点を先取され万事休すかと思われましたが、その裏の攻撃で5点を奪取し見事逆転サヨナラ勝ちで決勝戦に駒を進めました。

続く決勝戦は緊迫した投手戦となりましたが、5回に本塁打で先制されると、そのまま逃げ切られて0対1で敗戦し、全国大会を準優勝という結果で終えました。

ご声援いただきました皆さん、ありがとうございました。



▲MLBドリームカップ全国大会で準優勝を収めた野球部

MLBドリームカップ東日本代表決定戦
代表決定戦 VS 野宮塗装店株式会社(青森県代表) ○ 6対0

MLBドリームカップ全国大会(決勝トーナメント)
準決勝 VS カツウラ建機株式会社(北海道代表) ○ 5対4
(延長8回タイブレーク)

決 勝 VS JUWNES PRIDE 2019(愛知県代表) ● 0対1



栄養課の



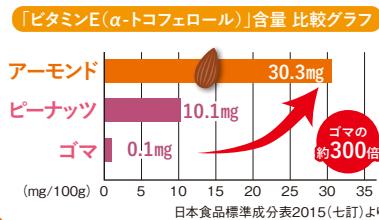
忙しい現代人へ、
第3のミルクとして美容と健康ニーズに応えた
アーモンドミルク

アーモンドは、ナッツ類の中でも栄養価が高く、美容や健康に良いと言われています。
その中でアーモンドミルクは手軽に、美味しく摂取できます!!

★☆栄養豊富な3つのポイント☆★

①ビタミンE：抗酸化作用

老化や免疫低下の原因である活性酸素の働きを抑制



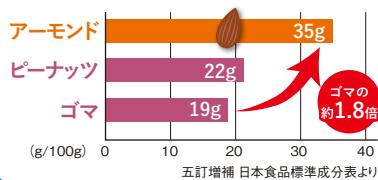
②食物繊維：便秘改善

水分を吸収し排便がスムーズ 腸内環境を整える



③オレイン酸：生活習慣病予防

体内合成できない不飽和脂肪酸 血中LDLコレステロールを減らす



アーモンドミルクのレアチーズケーキ

- ① クリームチーズは室温に戻し、粉ゼラチンは水に入れ溶かす
- ② ビスケットはビニール袋に入れ細かく碎き、電子レンジで溶かしたバター(600W30秒)を加え混ぜる
- ③ ②を型の底に敷き詰め、表面を平らにし、冷蔵庫で冷やしておく
- ④ ボウルにクリームチーズ、グラニュー糖を入れ、ゴムべらで均等になるように練る
- ⑤ 小鍋にアーモンドミルク50mlと溶いた卵黄を加えて温める
その後粉ゼラチンを加え火を止める
- ⑥ ④にアーモンドミルク150mlとレモン汁、⑤を加えて混ぜ合わせる
- ⑦ ③に⑥を流し入れ、冷蔵庫で冷やし固める(約3時間)



■栄養成分 (1人分)
215kcal
たんぱく質 4.0g
脂質 15.9g
炭水化物 13.6g
食塩相当量 0.3g
食物繊維 0.7g
ビタミンE 2.1mg

材料 [5~6人分] 18cm丸型使用

- クリームチーズ……200g
- 卵黄……………1個
- アーモンドミルク……200ml(50mlと150mlに分ける)
- グラニュー糖……大さじ1杯
- レモン汁……小さじ1杯
- 粉ゼラチン…………4g
- 水……………大さじ3杯
- 無塩バター…………50g
- ビスケット……100g

管理栄養士 小堀史央里

薬剤部の豆知識

睡眠薬

健康な成人では、浅いレム睡眠と深いノンレム睡眠を繰り返す睡眠パターンが見られます。不眠症では正常な睡眠のリズムが乱れ、寝つきが悪くなる(入眠困難)、夜中に何度も目が覚める(中途覚醒)、目が覚めるのが早すぎて熟睡感が得られない(早期覚醒)等があります。



睡眠薬の種類

ベンゾジアゼピン系薬

作用時間の違いにより、超短時間型(2~4時間)・短時間型(6~10時間)・中間型(12~24時間)・長時間型(24時間以上)があります。催眠作用・筋弛緩作用・抗不安作用があり、ふらつきや転倒に注意が必要です。

非ベンゾジアゼピン系薬

鎮静・催眠に選択的に作用し、筋弛緩作用には作用しないため、ベンゾジアゼピン系薬に比べて筋弛緩などの副作用が少なく、安全性がより高いとされています。

メラトニン受容体作動薬

睡眠を促すホルモンであるメラトニンを刺激して催眠効果を現します。筋弛緩作用や記憶障害、依存性の副作用が無いため安全性は高いですが、効果が若干弱いです。

オレキシン受容体拮抗薬

オレキシンは覚醒に関与する神経伝達物質で、これを抑制し、睡眠を誘発します。特に中途覚醒や早期覚醒に効果があります。

個々の患者の不眠のタイプ、合併症の有無、年齢などを考慮して睡眠薬を選択します。

また、急激な中止は不眠が悪化してしまうこともあります。気になることがありましたらご相談ください。



足利赤十字病院

Japanese Red Cross Ashikaga Hospital

〒326-0843 栃木県足利市五十部町284-1

TEL: 0284-21-0121 FAX: 0284-22-0225 ホームページ <https://www.ashikaga.jrc.or.jp/>

広報誌「風流鯨」Vol.36 /令和4年1月31日発行 編集・発行/足利赤十字病院広報委員会